

私が島前合宿に参加しようと思った理由は、三つあります。一つ目は、隠岐のまちづくりプロジェクトが魅力的だったからです。隠岐島前高校の島留学による生徒数増加の成功や、夢ゼミという他校に例のないユニークな試みの実態などを学べる良い機会だと期待しました。また、私は離島に行ったことが今までに無かったため離島でのコミュニティはどうなっているのか、島民は島での生活に対してどう思っているのかも興味がありました。二つ目は、時間を有効に使いたいと思ったからです。夏休みはバイトをしながら友人と遊び、充実したものにするのも可能ですが、大学生の夏休みは4回しかありません。限られた時間を利用して現場に赴き、普段は交流することができない人から話を聞くことはとても貴重な体験だと考えます。三つ目は、見識を広げたいと思ったからです。私の地元は福井県大野市であり、18年間その町で暮らしました。結果様々なことを学び理解したつもりでしたが、ずっと同じ土地で過ごし培った価値観はあまりにも狭かったと法政大学に進学して痛感しました。しかし、大学は自分の発想次第で有意義なものを得られる環境だとわかり、できる限りチャレンジしていこうとも決めました。普段接することのできない世代や島民の方々と交流することを楽しみにし、自分の価値観を改善するためのステップアップを期待できると思ったので、今回の島前合宿に参加しよう決めました。

参加した感想で、まず島民の人柄に惹かれました。例えば隠岐島前高校に打ち合わせで訪れた際、すれ違った高校生が全員私たちに「こんにちは」と挨拶をしてくれました。次に島の観光の際に利用したバス内で運転手さんがたくさんの隠岐に関する情報を教えてくれました。その他にも食材の支援や様々なおもてなしを施してくださり、そのような地域だからか隠岐島前高校の生徒の多くが将来的には隠岐に貢献できる人材になりたいと主張していました。このような地域コミュニティを築くのは並大抵のことではないと思われれます。これらの経緯から分かったことは、隠岐は支え合いの精神が自然に育まれる環境であり、その影響からか島民の方は地元を愛しているということです。私の考える地域づくりの成功とは、その地域に住んでいる住民が自分の地域に愛着を持ち、幸福に生活できる環境が確立した状態なので、隠岐は地域づくりが高い水準で成功している地域であると言えます。私の基礎ゼミ担当の水野先生がおっしゃっていたことに、日本人の多数は自分の住んでいる地域に愛着が持っていないという言葉がありました。その話と対極である隠岐の”人を結び付ける”魅力はとても学べる点があったので、他地域は隠岐から吸収できる点が多々あるのではないかと強く思いました。その一端に触れられたので、有意義な時間を過ごせたと思います。

次に、隠岐の学生と交流できたので良かったと思いました。私の大学生活でやっておきたかったことの一つに他地域の中学生・高校生と交流し、自分の学生時代と比較したいと考えていたので、今回の活動は楽しみにしていました。最初に隠岐島前高校のひとつなぎ部の学生と話す機会があり、その中の1人にひとつなぎ経験者で千葉県から島留学の制度を利用し高校に入学した学生がいたのですが、高校一年生にもかかわらず島を良くすることに積極的で、大学生相手に臆せず自分の思想を発言していました。私の高校時代と比べて

も、自分の地元のことを良くしようなどと考えたこともなかったので差があるなど感じました。逆に、自分の住んでいる地域を良くしたいと思わせる隠岐の魅力も凄いと感心しました。西ノ島中学校では、大学生とのフリートークの時間になると私に相談に来てくれた学生がいて、自分の将来のことをちゃんと考えていると理解でき、同時に羨ましくもなりました。今は負けてられないという気持ちでいっぱいです。

最後に、つながりができたことが大きいと思いました。地域づくりインターンの経験から、つながりが生まれることの楽しさ、魅力を実感していたので、今回生まれたひとつなぎ部とのつながり、西之島中学校とのつながり、泊めていただいた近藤さん宅とのつながり、いっしょに研修に行った先輩・同期とのつながり、何よりも隠岐という地域と私とのつながりが生まれ、これ以上の収穫はないと思いました。人が幸福になるためには支え合う人や土地が存在しなければいけません。これ程当たり前のことでも実際に自ら行動しなければ意識することすら不可能だと思います。隠岐に滞在した期間は 5 日間だったためとても短かったですが、得られたものはとても大きかったと思います。インターンの後でも実感しましたが、島前合宿が終わった後の帰りの船で感じられた充足感だけで行って良かったと感じられました。

この経験を活かすための今後の目標として、もっといろんな方と交流したいと思いました。現在私は児童系と高齢者のボランティアサークルに属しており、普段関わることの出来なかった世代の人達と交流しています。ボランティアのおかげで自分の視野は少しずつ広がっており、高校時代の自分と比べても見識が豊かになった実感があります。その結果まちづくりの分野においても福祉の視点は重要であると再確認しました。そして、サークルの企画で春休みに福祉の最先端と言われる秋田で合宿が行われる予定です。福祉の分野はあまり興味がありませんでしたが、隠岐に行った経験を活かしつつ秋田の方たちとつながりを作り、かつ曖昧だった福祉の現実を学ぶことが私の理想です。来年の夏休みには海外研修も予定されているので、本場の福祉やまちづくりの精神を肌で実感し日本と比較したいと強く思いました。次は、社会で活躍されている方に目を向けたいと思いました。今回の夢ゼミで交流があった講師の方がいらしたのですが、斬新で説得力のある講義に感嘆しました。社会で成功した人のスピーチは考えさせられることが多く、幸運にも東京では社会で活躍されている方の講義を気軽に拝聴できる機会が期待できるので、積極的に話を聞いていきたいと思いました。もちろん、大学の講義もより一層集中して受けたいと思います。

今後の課題としては、度胸を身につけるということです。私は内向的な性格であり、この性格のせいで苦労してきたことは数えきれません。改善の方法は、知識の引き出しを増やしながら信頼する人と関わりを持ち、場数を踏んでいくしかないと思います。隠岐で過ごした経験は、もちろん成長の糧になりました。合宿後の大学生活では、限りある時間を日々意識して、人前で発言する機会に臆さず挑戦し実りある生活を続けたいと思います。